

2005年3月1日

村民の皆様へ

白馬村民フォーラム
代表 渡邊俊夫

提言書

去る3月1日、フィルムコミッションの視点を通して地域をあらためて見直してみようと、全国フィルムコミッション連絡協議会理事・コミュニケーション委員会委員長の野本康夫氏を講師に招き、白馬パラダイス10カ年計画 vol.2 白馬のブランドイメージアップ作戦として、第12回白馬村民フォーラムを開催しました。尚、参加者は7名でした。

フィルムコミッションとは何か、各地での取り組み、白馬村における取り組み方など、限られた時間での真剣な討議を行いました。下記のように提言として纏めましたので、ここにご報告申し上げます。

村が発信しているイメージとは何かを知る

国内外の多くの人の中にある白馬村に対する大きなイメージの一つはスキージャンプである。それは、長野冬季オリンピックであり、原田選手の活躍であり、競技場である。即ち、それぞれの地域が持つイメージとは、その地域から発信される様々な情報によって形作られることを認識する必要がある。

「風景は財産である」ことを知る

自然環境、そして住民の様々な活動に伴う建造物等々、地域特有の風土が固有の風景を作り出している。即ち、白馬三山、川、道路、田圃、住宅等々、地域にある全てのものが風景となる。地域に馴染む風景とはどのようなものか、また、私たちが社会活動の中でつくる全てのものがその地域の風景に対して如何に責任を持たねばならないことを考える必要がある。何故ならば、私たちの村において「風景は財産である」からである。

優れた風景の登録と保全

「ふつう映像制作者は観光地観光地したところは撮らない。何気ない風景を撮る。」

何気ない風景の中にも、人を引き付ける魅力ある風景が沢山ある。それを見つけていくことは、新しい発見となる。それらの何気ない風景や村固有の優れた風景を財産として登録（紹介できるように）することは、村から発信する情報の指針となり、住む人の感性を養うことにもなる。そして、優れた風景を周知することにより、それらの保存・継承へと繋がる。